私たちヒメマスは陸封型のサケの一種で、一部の地域では「コカニーサーモン」と呼ばれています。「陸封型」である私たちが海に帰ることはありませんが、美しい十和田湖で残りの人生を過ごせるのなら本望です。私たちヒメマスの祖先がこの湖に辿り着いたのは、100年以上前のことです。ですが自分たちで泳いで来たわけではありません。というのも、十和田湖に祖先を連れてきたのは人間たちだからです。冷たく澄んだ水は、祖先が住むのに最適でした。餌となる美味しいミジンコも豊富でした。湖まで足を運べば、自分の目で確かめることもできます！

和井内貞行とヒメマス

かつて十和田湖には食用魚がいませんでした。20世紀はじめ、和井内貞行(1858年～1922年)という男性が、地元民に新鮮な魚を食べさせることを夢見ていました。コイやマスを養殖する試みは上手くいきませんでしたが、1905年、和井内はついにヒメマスの繁殖に成功しました。

1895年、北海道阿寒湖を原産とするヒメマスが支笏湖に移入されました。和井内貞行はこの例に倣い、1905年に支笏湖から繁殖用のヒメマスを運び出しました。今日に至るまで、秋になると卵の採取が行われ、地元のふ化場でふ化と繁殖がなされます。春には幼魚の放流が行われています。

ヒメマスは十和田湖の珍味です。ぜひこちらにいらっしゃる間に味わってみてください！